

今日のキーワード インドの「財政」執行状況は順調（インド）

インド政府は、2014年度（2014年4月～2015年3月）にGDP比4.0%だった財政赤字を3年かけて3.0%に減らす方針です。2015年度の目標は3.9%としています。月毎の財政執行状況は、財政健全化の進み具合を見極めるのに重視されています。また、モディ政権が進める徴税強化や公共投資の拡大などの構造改革の進展を測る指標としても重要です。

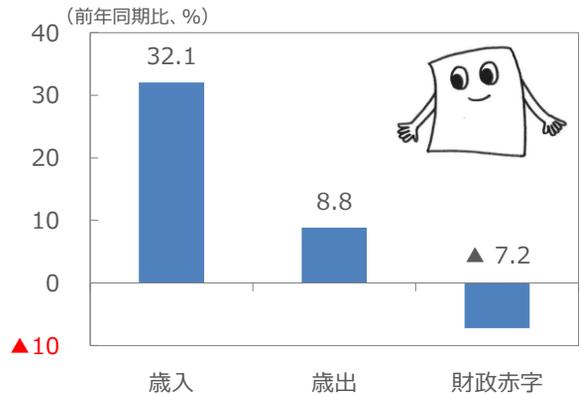
ポイント1 4月から8月までの財政赤字は抑制的に推移 今年度の財政収支計画達成が可能な見通し

- 2015年度（4月から8月、以下同様）の財政赤字は前年同期から7.2%減少しています。これは年度計画の66.5%にとどまり、前年度の同じ期間の同74.9%と比較して、財政赤字は抑制されたペースとなっています。
- これまでのところ、今年度の財政執行状況は適切に管理されているといえ、財政赤字をGDP比3.9%とする目標は達成可能と思われます。

ポイント2 歳入増が歳出増を上回る 歳出は公共投資を重視

- 財政赤字の抑制は、歳入の伸びが歳出の伸びを上回っていることで実現されています。8月までで、歳入が前年同期比+32.1%と大幅に増加している一方、歳出が同+8.8%にとどまっています。良好な歳入ペースからは、内需の堅調さがうかがわれます。
- 歳出のうち公共投資は前年同期比+18.6%と2桁のペースで拡大しています。政府は経費支出を抑えながら、景気に配慮した財政政策を進めているといえそうです。

【政府財政の執行状況】



(注) 2015年4月～2015年8月の実績。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 公共投資と金融緩和が足並みを揃え、景気を下支え

■ 財政状況はRBIの政策の支障にならず

インド準備銀行（中央銀行、RBI）は、金融政策を行う上で、財政政策が過度に拡張的な場合、金融緩和に消極的となる傾向があります。足元の順調な財政執行状況からは、RBIがそうした配慮をする必要はほとんどないと見られます。

■ 米国の利上げ先送りで追加利下げ期待も

RBIは、9月29日に政策金利を0.50%引き下げ6.75%とし、年初からの利下げ幅は累計1.25%になりました。米国の年内利上げ観測が後退していることもあり、物価安定と財政健全化が進めば、追加利下げ期待が高まる可能性があります。

ここもチェック! 2015年9月30日 インド中銀、政策金利を0.50%引き下げ
2015年9月17日 最近の指標から見るインド経済（2015年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。